

等粒状組織をもつ岩脈 —群馬県下仁田町の例—

<竹内圭史¹⁾>

マグマが堆積岩中に幅数 m 規模の岩脈として貫入した場合、すみやかに冷却固結して細粒緻密な無斑晶組織あるいは斑状組織をもつ火山岩となる。すなわち、岩脈が粗粒な等粒状組織をもつ深成岩であることはない、というのが地質学の教科書的常識である。しかしその常識に反する例もある。

写真1は、群馬県下仁田町で石灰岩に石英閃緑岩が貫入している露頭の写真である。この貫入露頭は、四ッ又山北方に断片的に分布する石灰岩(新井ほか, 1963)で見つかった。四ッ又山本体の石灰岩は時代未詳, 石英閃緑岩の地質時代は前期白亜紀である(高木ほか, 1989)。

なぜこのようなごく小規模な岩脈が等粒状組織であり得

るのか, という疑問は今後の研究課題である。

文 献

- 新井房夫・端山好和・林 信悟・細矢 尚・井部 弘・神沢憲治・木崎喜雄・金 今照・高橋 洌・高橋武夫・武井暁朔・戸谷啓一郎・山下 昇・吉羽興一 (1963) 群馬県下仁田町の跡倉礫岩を中心とする地質学的研究. 地球科学, **64**, 18-31.
- 高木秀雄・柴田 賢・内海 茂・藤森秀彦 (1989) 関東山地北縁部の花崗岩類のK-Ar年代. 地質学雑誌, **95**, 369-380.



写真1 沢の壁面の露頭で、平滑な部分は石灰岩。石灰岩は接触変成の程度は低いものの全体が再結晶しており、化石の産出は知られていない。
石灰岩中に、不規則な薄い層状・レンズ状の石英閃緑岩が互いに平行に配列している。肉眼観察では石英閃緑岩に細粒急冷縁は確認できない。露頭面では石英閃緑岩薄層は互いに孤立しているが、3次元的には網状に連続しているものと思われる。最も薄い層でさえも粒径2~3 mmの斜長石・普通角閃石が等粒状組織をしている点に注目。レンズキャップの直径55 mm。

1) 産総研 地質情報研究部門

TAKEUCHI Keiji (2012) Dike with equigranular texture: an example from the Kanto Mountains.